

海洋島

第8巻 第5号 (通巻53号)

東京都小笠原水産センター

2006年 12月 12日発行

〒100-2101 東京都小笠原村父島字清瀬

04998-2-2545 Fax. 04998-2-2546

小笠原初の珍しいエビが獲れました！

11月14日に小笠原島漁協所属の「ちひろ丸」がアカイセエビに混じって、今までに見たことのない、長いヒゲ(第2触角)がピンク色のイセエビ(写真参照)を水揚げしました。

早速、日本の甲殻類研究の第一人者、三重大学の関口秀夫教授に同定をお願いしたところ、カノコイセエビの亜種である、シロヌケ型カノコイセエビ(*Panulirus femoristriga*)であると判明しました。

関口先生によると「本種の主分布域は熱帯域で、台湾、琉球列島から、さらには黒潮の影響下にある本州の太平洋側の紀伊半島においても、稀に採集される。恐らく、小笠原では初めての採取報告になる。」とのことでした。

シロヌケ型カノコイセエビは、短いヒゲ(第1触角)に縞模様がないこと、第2触角がピンク色を呈していることから、他のアカイセエビやシラヒゲエビと識別することができます。

関口先生のこれまでの研究では、1991年の論文で、本邦近海で採集されるカノコイセエビには3つの型があり、それぞれアカエビ型、シラヒゲエビ型、シロヌケエビ型と名付けられました。その後の研究により、2006年の論文では、このうちアカエビ型が新種とされ、「*Panulirus brunneiflagellum*」、標準和名「アカイセエビ」が与えられました(本号47号)。これまで小笠原では僅かですが、アカイセエビに似ていながら、第1触角に縞模様のあるイセエビが獲れ「シラヒゲエビ」と呼ばれており、カノコイセエビ類2種の分布が確認されていましたが、今回、初めてシロヌケ型カノコイセエビが確認されたことにより、本邦近海に分布する3型がすべて小笠原に分布していることが確認されたこととなります。このシロヌケ型カノコイセエビは、アカイセエビと一緒に当センター水族館内の水槽にて、展示しています。ぜひ見比べて下さい。なお、関口先生によれば、現段階でのカノコイセエビ類の学名・標準和名については、次の通りとなります。

カノコイセエビ

- アカエビ型
- シラヒゲエビ型
- シロヌケエビ型

アカイセエビ(*Panulirus brunneiflagellum*)

カノコイセエビ

- シラヒゲ型カノコイセエビ(*Panulirus longipes bispinosus*)
- シロヌケ型カノコイセエビ(*Panulirus femoristriga*)



写真は *Panulirus femoristriga* (シロヌケ型カノコイセエビ)

【用語解説】

- 1) 学名は、国際動物命名規約に定めています。ラテン語の二名法で、初めに属名、次に種小名。この2つで表します。亜種となる場合は、三名法をとる決まりとなっています。
- 2) 標準和名: 国内で統一された名称で、日本独自のものです。図鑑や論文により提唱されてきている標準的な和名で、日本以外には標準和名のような、ひとつの種に、ひとつの名前という考え方はありません。

興洋が23年間の活動に終止符を打ちました。12月5日には、神奈川県三崎港に回航され、今後売船のための手続きを行う予定です。来年3月には新船に生まれ変わって、小笠原に帰ってきますので宜しくお願いします。これから本紙面でも新しい機能など紹介していきます。